

薩摩青雲丸新聞 令和7年度第2次航海 最終号

第5代薩摩青雲丸 マグロ延縄実習終了!! 枕崎に向けて航進中!!

令和7年11月10日発行 鹿児島水産高校 薩摩青雲丸 指導教官

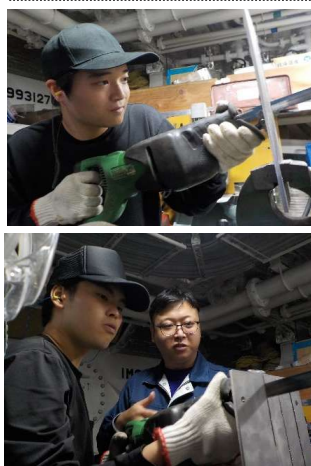
マグロ延縄実習終了

十月二十一日から開始したマグロ延縄実習も事故・怪我等なく、最終日を迎えました。操業途中で荒天避難のため神奈川県の三崎港に緊急入港を挟みましたが、全員緊張感を切らせる事無く取り組んでくれました。千秋楽(最終日)の作業終了後の生徒達の表情からは、疲労が伝わりてきました。この操業実習では漁船としての業務内容や技術を学ぶだけでなく、船乗りとして仕事をしていく覚悟や使命感も養うことができたように思います。事前に漁具の取り扱いについて練習を重ねてきましたが、操業当初は慣れない作業に戸惑いながらも、日に日に成長していく姿を見ることができました。また、船に上がってくる普段目にするのではない生きたマグロ・カジキ類の大きさに、実習生たちは興奮気味でした。実習生の担当作業は、専攻科生を中心に積極的・効率的に動き、周りとの協力しながら作業をしっかりとやり遂げました。下船して再会した時の成長した姿を楽しみにお待ちください。



金属加工実習

機関技術科の生徒は、実習の一環として金属加工実習を行います。旋盤やガス・アーク溶接等、多岐にわたる内容です。この日は、電動切断機を使用して金属板を加工する実習を行いました。真つ直ぐに切断するのはコツが必要で、なかなか難しかったようです。



実習の感想

2年海洋科機関コース 室屋碧海

実習前は期待や不安がありましたが、いざ乗船すると片頭痛や酔いに悩まされませんでした。しかし、応援してくる家族や同級生のことを思い出し、私の夢の現に向けて支えてくれていて乗り越えてきました。そして操業が始まり、島影一つない水平線の彼方へ思いを馳せながら、大自然の中で皆と協力しながら作業を進める中で、大きなマグロが釣れた喜びと達成感は何物にも代えがたい財産となりました。乗船実習が終わった後は、機関当直や作業の経験を生かして、2月の3級海技士定期試験に向けて勉強に励むとともに、船内生活で学んだ様々なことを学校生活に還元し、皆の役に立ちたいと思います。そして、卒業後は次世代の水産・海運業界を担う人材になれるように、人間力を更に向上させるべく、在学中は精いっぱい頑張りたいです。



本科生航海当直体験

本科機関コースの実習生を対象に、船橋での航海当直を実施しました。初めて見るレーダー、電子海図といった最新の機器の操作方法を専攻科生から学んだり、航海士と同じように見張り業務を行いました。実際に操舵装置を操作して船の進行方向を調整する体験も行うことができました。針路を保持するのですが、非常に難しかったようです。船舶の全体像や、別の部署の仕事内容を理解する良い機会になりました。

タイムスケジュール

操業中は、仕掛けを投入する投縄班、仕掛けを回収する揚縄班、航海・機関当直、食事当番班に分かれて活動します。投縄班は朝に投縄作業を行い、午後中学習、揚縄班は午前中に学習を行い、夕刻より揚縄作業に従事します。食事は各食事に合わせて、準備と片付けを行うなど、その日決められた役割に応じたスケジュールで行動していきます。与えられた役割を自分で確認し、時間の管理することで船乗りとしての資質を向上させ、実習をとおして社会人として求められる素養を身につけます。